



2017年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2016年10月
大阪ガス株式会社

I. 17.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

本日は、お忙しいところ、当社の決算説明会にお集まりいただき、
ありがとうございます。

また、平素は、当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、
厚く御礼申し上げます。

ただ今から、2017年3月期 第2四半期決算と通期見通しについて、
ご説明させていただきます。

17.3期第2四半期決算のポイント I

対前年同期比較

■ 概況(連結)

売上高	LNG価格の下落に伴う、ガス販売単価の下落などにより、 前年比17.0%(1,090億円)減収の5,323億円
経常利益	スライド差益の減少により、ガス粗利益が減少したことなどにより、 前年比46.0%(427億円)減益の501億円 スライド差益は174億円(前年同期スライド差益510億円)
四半期純利益*	前年比49.4%(326億円)減益の333億円

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

■ ガス販売量(個別)

家庭用	気水温が高く推移し、給湯・暖房需要が減少したこと等により、 前年比3.6%(27百万m³)減少の746百万m³
商・公・医療用	夏期の気温が高く推移し、冷房需要が増加したことや、 空調需要を中心に新規の需要開発が進んだことなどにより、 前年比1.1%(8百万m³)増加の731百万m³
工業用	大規模な需要開発や、お客さま設備の稼働が増加したことなどにより、 前年比11.9%(241百万m³)増加の2,258百万m³

3

 OSAKA GAS
GROUP

2017年3月期 第2四半期は、前年同期実績と比べて、減収・減益の決算となりました。

連結売上高は、ガス事業においてガス販売単価が下落したことなどにより、前年と比べて17.0%、1,090億円減収の、5,323億円となりました。

連結経常利益は、スライド差益の減少により、ガス事業の利益が減少したことなどから、前年と比べて46.0%、427億円減益の、501億円となりました。

連結四半期純利益は、前年と比べて49.4%、326億円減益の、333億円となりました。

大阪ガス個別のガス販売量について、家庭用は、気水温が高く推移し給湯や暖房の需要が減少したことなどにより、前年を3.6%下回る、7億4,600万立方メートルとなりました。

商業用・公用・医療用は、夏場の気温が高く推移し、冷房需要が増加したことや、空調需要を中心に新規の需要開発が進んだことなどにより、前年を1.1%上回る、7億3,100万立方メートルとなりました。

工業用は、大規模な需要開発やお客さま先の設備の稼働が増加したことなどにより、前年を11.9%上回る、22億5,800万立方メートルとなりました。

17.3期第2四半期決算のポイント II

対当初計画比較

■ 概況(連結)

売上高	ガス事業や関係会社の売上高が減少したものの、附帯事業の売上高が増加したことなどから、 ほぼ計画並みの5,323億円
経常利益	ガス粗利益や附帯事業差益が増加したことなどにより、 計画を32.0%(121億円)上回る501億円

■ ガス販売量(個別)

家庭用	気水温が高く推移し、給湯・暖房需要が減少したことなどにより、 計画を3.2%(25百万m³)下回る746百万m³
商・公・医療用	需要開発が進んだものの、気水温影響が想定を下回ったことなどにより、 計画を1.8%(14百万m³)下回る731百万m³
工業用	需要開発やコージェネレーションの稼働が想定を上回ったことなどにより、 計画を3.7%(80百万m³)上回る2,258百万m³

■ その他

新規事業拡大投資	海外エネルギー事業を中心に、意思決定済案件への投資を実行し、上半期の投資実行額は計画を423億円下回る 計276億円(前年実績比50%)
----------	---

続きまして、当初計画との比較でご説明します。

連結売上高は、ガス売上高や関係会社の売上高が減少したものの、附帯事業の売上高が増加したことなどにより、ほぼ計画並みとなりました。

連結経常利益は、ガス事業や附帯事業の利益が増加したことなどにより、見通しを32.0%、金額にして121億円上回りました。

大阪ガス個別のガス販売量について、家庭用は3.2%、商業用・公用・医療用は1.8%、それぞれ計画を下回りましたが、工業用では3.7%計画を上回ったことなどにより、ガス販売量全体では、計画を1.1%上回りました。

新規事業拡大投資では、海外エネルギー事業を中心に投資を実行し、上半期の投資実行額は276億円となりました。

17.3期第2四半期ガス販売実績

45MJ/m ³	A. 17.3期 2Q	B. 16.3期 2Q	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B	C. 17.3期 2Q当初計画	計画比 (A-C)/C
お客さま数(千件)	7,270	7,215	+55	+0.8%	7,266	+0.1%
新設工事件数(千件)	45	46	-2	-3.6%	43	+3.9%
家庭用1戸当り販売量(m³/月)	20.9	21.8	-0.9	-4.3%	21.6	-3.4%
個別						
家庭用	746	774	-27	-3.6%	771	-3.2%
商・公・医療用	731	723	+8	+1.1%	745	-1.8%
工業用	2,258	2,017	+241	+11.9%	2,178	+3.7%
業務用計	2,989	2,740	+249	+9.1%	2,923	+2.3%
他ガス事業者向け	232	224	+8	+3.7%	232	+0.1%
(うち大口供給)	2,576	2,332	+244	+10.5%	2,504	+2.9%
ガス販売量合計(百万m³)	3,968	3,738	+230	+6.1%	3,926	+1.1%
連結ガス販売量	3,985	3,756	+229	+6.1%	3,944	+1.1%

ただ今ご説明しました、ガス販売実績を、こちらにまとめております。

連結ガス販売量は、前年を6.1%上回り、計画を1.1%上回る、
39億8,500万立方メートルとなりました。

なお、プレゼンテーション資料には記載しておりませんが、
低圧電気の供給件数は、9月末時点で19万1千件となりました。
また、10月25日時点での供給件数は約21万件となっております。

17.3期第2四半期実績 I

連結:億円	()内は連単倍率					
	A. 17.3期2Q	B. 16.3期2Q	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B	C. 17.3期 2Q当初計画	計画比 (A-C)/C
売上高	(1.29) 5,323	(1.25) 6,414	-1,090	-17.0%	5,330	-0.1%
営業利益	(1.32) 499	(1.21) 940	-441	-46.9%	380	+31.4%
経常利益	(0.98) 501	(1.12) 929	-427	-46.0%	380	+32.0%
四半期純利益 ※1	(0.84) 333	(1.09) 659	-326	-49.4%	255	+30.9%
SVA ※2	197	499	-301	-60.4%	110	+79.0%

		A. 17.3期2Q	B. 16.3期2Q	前年差 A-B	C. 17.3期 2Q当初計画	計画差 A-C
スライド差損益	億円	174	510	-336	99	+75
原油価格 ※3	\$/bbl	43.6	58.9	-15.2	40.0	+3.6
為替レート	円/\$	105.2	121.9	-16.7	120.0	-14.8
連結子会社数		147	147	±0	---	---

※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

※2 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※3 17.3期2Q原油価格実績は、9月上中旬値までの平均

6ページには、2017年3月期 第2四半期の決算数値を
まとめておりますので、ご確認ください。

17.3期第2四半期実績 II

連結:億円	A. 17.3期 2Q末	16.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	17,112	18,499	18,297	-1,185	固定資産の減少等
自己資本	8,816	9,393	9,066	-250	
有利子負債	5,466	5,936	5,671	-205	長期借入金の減少等
在籍人員	21,009	21,486	20,844	+165	
自己資本比率	51.5%	50.8%	49.5%	+2.0%	
D/E比率	0.62	0.63	0.63	-0.01	
	A. 17.3期2Q	B. 16.3期2Q		A-B	備考
設備投資	348	514		-166	海外事業投資の減少等
減価償却費	416	422		-6	
フリーキャッシュフロー	221	1,305		-1,083	当座資産・棚卸資産の減少等
ROA	1.9%	3.6%		-1.7%	
ROE	3.7%	7.2%		-3.5%	
EPS (円/株)	16.0	31.7		-15.7	ガス粗利益の減少等
BPS (円/株)	423.9	451.5		-27.6	固定資産の減少等

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

7

 OSAKA GAS
GROUP

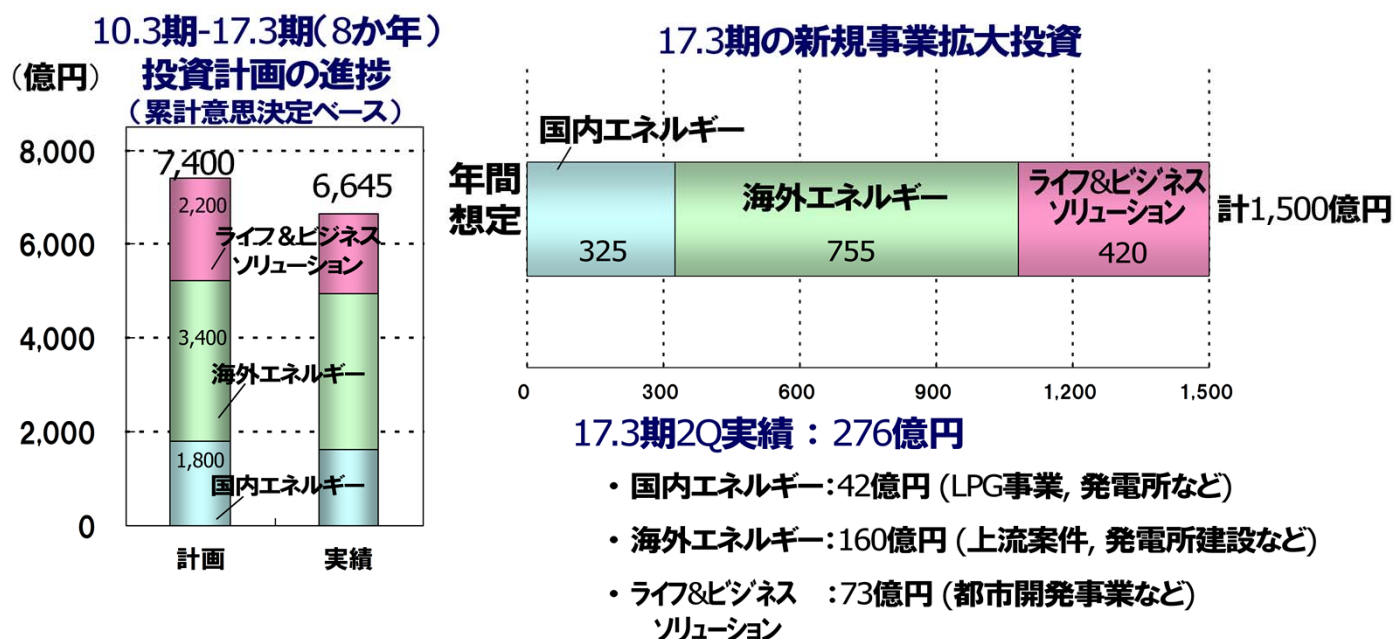
資産・負債項目や、主な財務指標の実績は、ご覧の通りです。

設備投資は、前年に比べて海外事業への投資が減少したことなどにより、前年を166億円下回る348億円となりました。

ROA・ROEは、それぞれ前年を下回る 1.9%、3.7%となりました。

17.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- 海外上流・中下流案件、不動産への投資などを中心に、計276億円の投資を実行
- 10.3期-17.3期の意思決定済金額は6,645億円(対計画90%)



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。



8ページには、新規事業拡大投資計画の実績をまとめておりますので、ご覧ください。

なお、2009年4月以降の累計意思決定金額は、対計画90%の6,645億円となりました。

引き続き、成長のための投資を進めてまいりたいと考えています。

17.3期見通し 修正のポイント

			今回見通し	当初計画	差	備考
下期の 前提諸元	原油価格	\$/bbl	55.0	45.0	+10.0	
	為替レート	円/\$	105	120	-15	
個別ガス 販売量 (百万m ³) (45MJ/m ³)	家庭用		(1,356)	(1,356)	(±0)	
			2,103	2,127	-25	
	業務用 その他		(3,123) 6,345	(3,165) 6,320	(-42) +25	お客さま設備の稼働 増減などを織り込み
収支 (億円)	連結売上高		11,705	11,705	±0	
	ガス粗利		3,200	3,260	-60	スライド差益の減少等
	営雑・附帯利益		252	202	+50	附帯差益の増加
	労務費・諸経費・ 減価償却費		2,967	2,987	-20	諸経費の減少
	関係会社利益		335	380	-45	OGUSA・フリーポートPJ関連
	連結営業利益		820	855	-35	
	連結営業外収支		-40	-75	+35	持分法投資利益の増加等
	連結経常利益		780	780	±0	

(注)ガス販売量の上段()内は、17.3期下期の数値(内数)

9

 OSAKA GAS
GROUP

続いて、2017年3月期通期の見通しを修正いたしましたので、ご説明いたします。

まず、下期の前提諸元を、先物価格やシンクタンクの予測なども踏まえ、原油価格は1バレルあたり55ドル、為替レートは1ドルあたり105円といたしました。

通期の個別ガス販売量は、家庭用では計画を2,500万立方メートル下回るものの、業務用・その他では計画を2,500万立方メートル上回ることから、ガス販売量全体では計画並みと想定しています。

連結経常利益は、ガス粗利益や関係会社における利益が減少するものの、諸経費などのコスト削減や附帯事業の利益増加などを織り込み、当初計画並みの780億円と想定しています。

17.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 17.3期 見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,298	7,252	+46	+0.6%
	新設工事件数(千件)	110	109	+0	+0.3%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	29.3	29.3	+0.1	+0.2%
	家庭用	2,103	2,083	+19	+0.9%
	商・公・医療用	1,446	1,410	+36	+2.6%
	工業用	4,416	4,059	+357	+8.8%
	業務用計	5,862	5,469	+393	+7.2%
	他ガス事業者向け	483	469	+14	+3.1%
	(うち大口供給)	(5,021)	(4,647)	(+374)	(+8.0%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,447	8,021	+427	+5.3%
連結ガス販売量	8,480	8,052	+427	+5.3%	

2017年3月期のガス販売見通しを、こちらにまとめております。

連結ガス販売量は、前年を5.3%上回る84億8,000万立方メートルを見込んでいます。

17.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 17.3期 見通し	B. 16.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.31) 11,705	(1.27) 13,220	-1,515	-11.5%
営業利益	(1.69) 820	(1.31) 1,466	-646	-44.1%
経常利益	(1.25) 780	(1.19) 1,349	-569	-42.2%
当期純利益*	(1.07) 520	(1.01) 843	-323	-38.3%
SVA**	256	526	-269	-51.3%
スライド差損益 億円	89	817	-727	
原油価格 \$/bbl	49.3***	48.7	+0.6	
為替レート 円/\$	105.1	120.2	-15.0	

* 親会社株主に帰属する当期純利益

** SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

*** 原油価格の前提 3-4Q:55\$/bbl

こちらには、収支等の見通し数値をまとめておりますので
ご確認ください。

前提となる原油価格は、年間平均で1バレルあたり49.3ドル、
為替レートは、1ドルあたり105.1円としています。

17.3期見通し II

連結:億円	A. 17.3末見通し	B. 16.3末実績	A-B
総資産	17,818	18,297	-479
自己資本	8,898	9,066	-168
有利子負債	5,528	5,671	-143
在籍人員	21,232	20,844	+388
自己資本比率	49.9%	49.5%	+0.4%
D/E比率	0.62	0.63	-0.00
	A. 17.3期見通し	B. 16.3期実績	A-B
設備投資	1,095	1,144	-48
減価償却費	866	867	-0
フリーキャッシュフロー	886	2,257	-1,371
ROA	3.0%	4.6%	-1.6%
ROE	5.9%	9.4%	-3.5%
EPS (円/株)	25.0	40.5	-15.5
BPS (円/株)	427.8	435.8	-8.0

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。

12

 OSAKA GAS
GROUP

最後になりますが、資産・負債項目や、主な財務指標の見通しを、こちらに、まとめておりますので、ご確認下さい。

通期のROA・ROEは、それぞれ、3.0%、5.9%となる見通しです。

13ページ以降には、ご参考資料として、詳細な決算の差異分析資料や、セグメント別内訳などの資料をつけておりますので、あわせてご覧下さい。

来年4月より、ガス小売全面自由化をむかえますが、総合エネルギー事業者としての真価が問われる中、我々も挑戦者として決意を新たにしたいと思っています。

我々にとって一番大切なことは、いかに多くのお客さまに当社のファンになってもらい、ファンであり続けていただくかです。そのために、これまでになかったサービスを考え、そしてこれまでのサービスを更に充実させる必要があります。新しい付加価値をお客さまに提案し、お客さまに選ばれ続けるよう、不断の努力を重ねていきたいと考えています。引き続き、ご理解、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

II. 参考資料

トピックス 福島ガス発電 (FGP) への出資

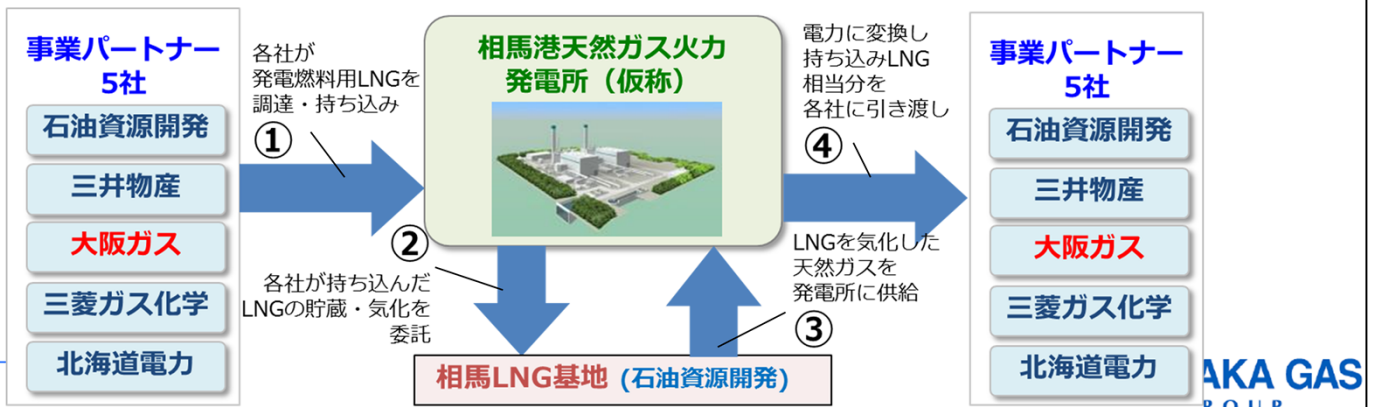
■ 福島県・相馬港における天然ガス火力発電事業の推進

会社名	福島ガス発電株式会社 (2015年4月設立)
資本金	資本金:5.37億円 資本準備金:5.37億円
出資比率	石油資源開発:33%・三井物産:29%・ 大阪ガス:20% ・三菱ガス化学:9%・北海道電力:9%



発電所名	相馬港天然ガス火力発電所(仮称)
発電方式	ガスタービンコンバインドサイクル方式
総発電規模	118万kW (59万kW発電設備×2基)
運転開始時期	2020年春 ※118万kW規模は同年夏以降

■ 事業スキーム : トーリング方式



17.3期第2四半期の売上高差異(対前年同期)

16.3期2Q → 17.3期2Q (差異)

6,414億円 5,323億円 (-1,090億円)

個別: -1,004億円

ガス売上高 -938億円
・スライ卜影響 -1,092億円
・数量差等 +154億円

その他売上高 -65億円
・器具販売 -43億円
・電力事業売上 -18億円

連 - 個 : -85億円

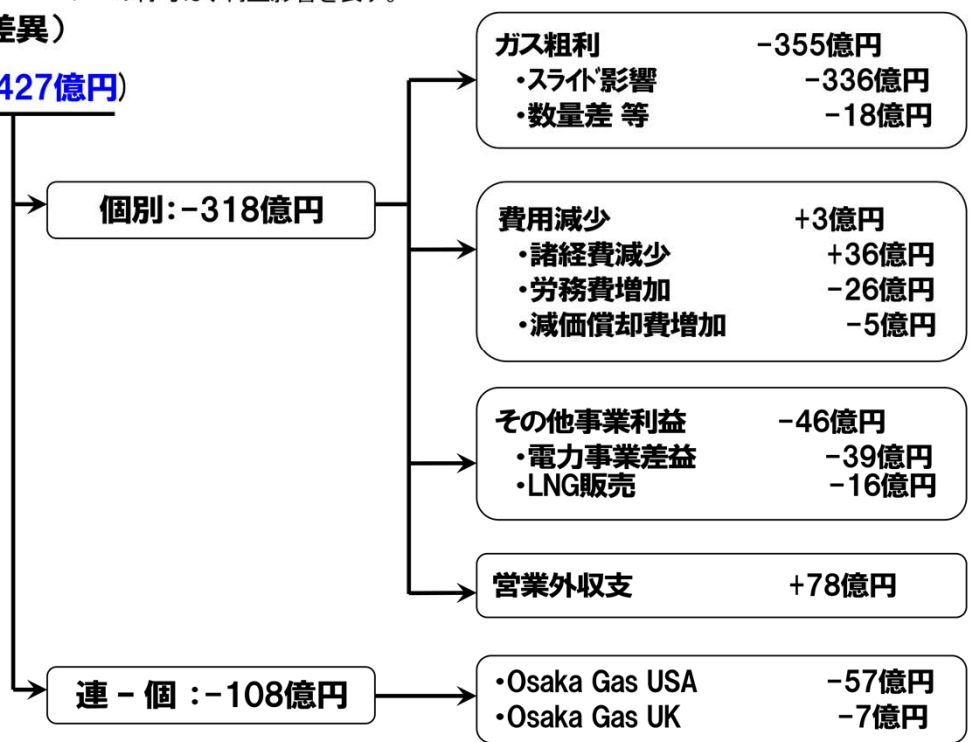
・Osaka Gas USA -43億円
・大阪ガスコミュニティライフ -18億円
・大阪ガスエクセレントエージェンシー -16億円

17.3期第2四半期の経常利益差異(対前年同期)

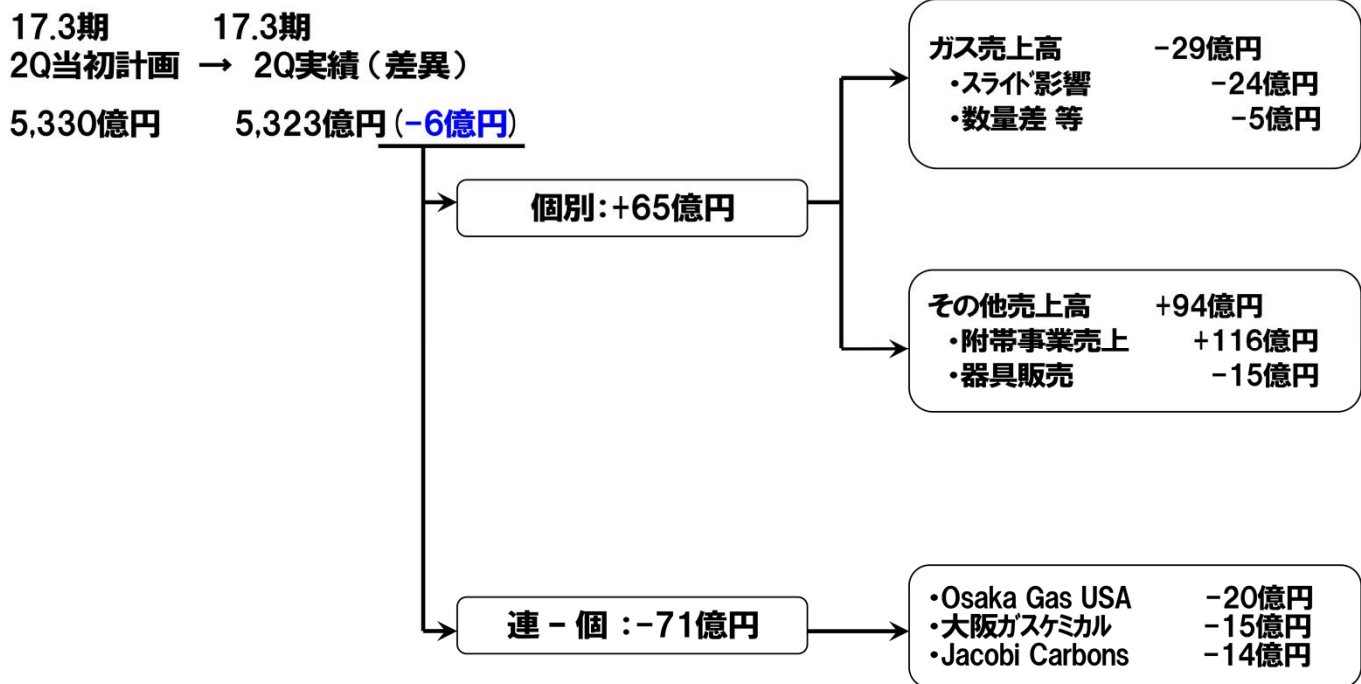
+-の符号は、利益影響を表す。

16.3期2Q → 17.3期2Q (差異)

929億円 501億円 (-427億円)



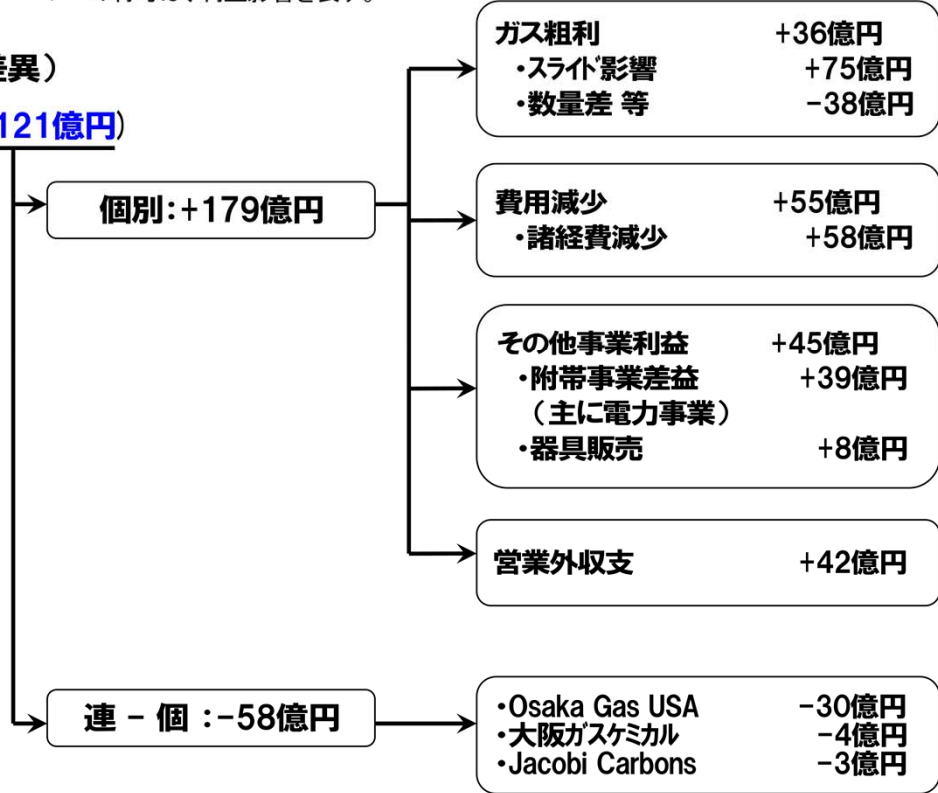
17.3期第2四半期の売上高差異(対当初計画)



17.3期第2四半期の経常利益差異(対当初計画)

+-の符号は、利益影響を表す。

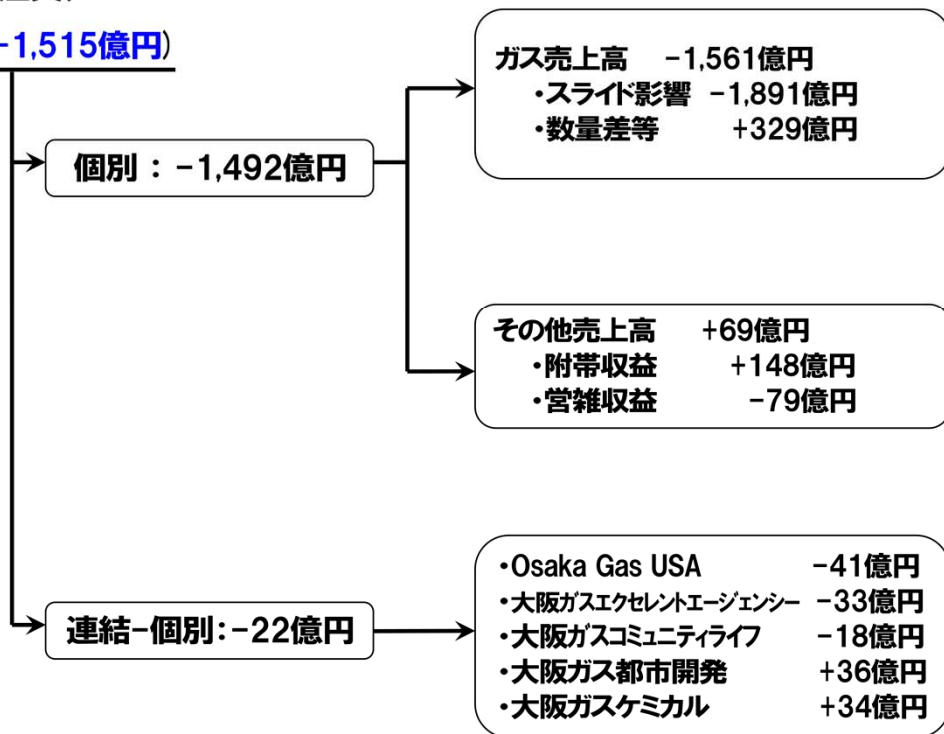
17.3期 2Q当初計画 380億円
 17.3期 2Q実績(差異) 501億円(+121億円)



17.3期売上高見通しの前年差異

16.3期実績→17.3期見通し(差異)

13,220億円 11,705億円 (-1,515億円)



17.3期経常利益見通しの前年差異

16.3期実績 → 17.3期見通し(差異)

1,349億円 780億円 (-569億円)

+-の符号は、利益影響を表す。

個別：-508億円

ガス粗利益 -694億円
 ・スライド影響 -727億円
 ・数量差等 +33億円

費用減少 +121億円
 ・諸経費減 +153億円
 ・労務費増 -22億円

その他事業利益 -62億円
 ・附帯差益 -97億円
 ・営雑差益 +34億円

営業外収支 +127億円

連結-個別:-61億円

・Osaka Gas USA -51億円
 ・Osaka Gas UK -10億円

セグメント別2Q累計実績

単位:億円	売上高		セグメント利益 ^(*)		備考
	17.3期 2Q	16.3期 2Q	17.3期 2Q	16.3期 2Q	
ガス	3,597	4,586	319	648	売上:ガス販売単価下落 利益:ガス粗利の減少
LPG・電力・ その他エネルギー	947	1,038	118	169	売上・利益:主に電力事業で減少 電力事業利益 ^(**) 16.3 2Q 100億円 17.3 2Q 60億円
海外エネルギー	64	107	-18	36	売上・利益:米国エネルギー事業等で減少 (フリーポート影響等)
ライフ&ビジネス ソリューション	1,004	1,002	78	74	売上・利益: 全体としてほぼ前年並み
消去又は全社	-289	-321	1	7	
連結	5,323	6,414	498	937	

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

(**)電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示

セグメント別通期見通し

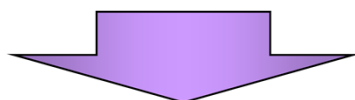
単位:億円	売上高		セグメント利益 ^(*)		備考
	17.3期 見通し	16.3期 実績	17.3期 見通し	16.3期 実績	
ガス	7,856	9,485	420	957	売上:ガス販売単価下落 利益:ガス粗利の減少
LPG・電力・ その他エネルギー	2,053	2,064	190	288	売上:電力事業・LNG販売等で増加、 LPG事業で減少 利益:電力事業・LNG販売で減少等
海外エネルギー	177	187	-15	-2	売上・利益:米国エネルギー事業等で減少 (フリーポート影響等)
ライフ&ビジネス ソリューション	2,222	2,217	205	188	売上:ほぼ前年並み 利益:材料ソリューション事業等で増加
消去又は全社	-603	-733	20	-9	
連結	11,705	13,220	820	1,421	

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

家庭用ガス販売

17.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.8%	
気水温影響等	-2.1%	平均気温24.1度(対前期+0.9度)
その他	-2.3%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-3.6%	



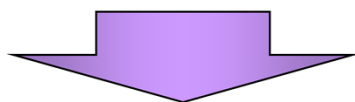
17.3期通期見通し

- 上期は、前期を27百万m³下回り、見通しを25百万m³下回った
- 下期は、見通しどおり推移すると想定
- 通期では、前期を19百万m³上回り、見通しを25百万m³下回る2,103百万m³と想定

商公医療用ガス販売

17.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.9%	空調需要を中心とした新規開拓
気水温影響等	+2.5%	夏期の高気温による冷房需要の増加
個別要因	-1.2%	特殊要因によるお客さま先での設備稼働の減少
その他	-2.1%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	+1.1%	



17.3期通期見通し

- 上期は、前期を8百万m³上回り、見通しを14百万m³下回った
- 下期は、見通しを5百万m³下回ると想定
- 通期では、前期を36百万m³上回り、見通しを19百万m³下回る1,446百万m³と想定

工業用ガス販売

17.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+13.6%	大規模な需要開発等
稼動増減等	+0.9%	お客さま設備の稼動増等
個別要因	-2.3%	特殊要因による減少
その他	-0.2%	
合計	11.9%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	153	97.2%
金属	474	100.0%
ガラス	141	96.0%
化学	625	101.5%
食品	265	102.8%

17.3期通期見通し

- 上期は、前期を241百万m³上回り、見通しを80百万m³上回った
- 下期は、見通しを37百万m³下回ると想定
- 通期では、前期を357百万m³上回り、見通しを43百万m³上回る4,416百万m³と想定

17.3期 月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期累計
家庭用		94.8	99.9	100.7	94.2	95.2	92.1	96.4
商・公・医療用		95.5	90.2	104.6	102.9	100.0	110.7	101.1
工業用		101.5	121.2	112.9	106.0	114.5	116.8	111.9
業 種 別	機械	93.8	104.1	95.4	91.4	99.2	101.4	97.2
	金属	98.2	102.0	99.7	99.9	98.2	101.8	100.0
	ガラス	95.4	104.0	98.1	92.8	99.1	95.7	96.0
	化学	94.5	109.2	107.4	96.4	100.5	102.2	101.5
	食品	100.0	106.9	102.8	98.2	104.6	104.5	102.8
他ガス事業者向け		98.7	120.8	94.6	96.3	109.3	104.2	103.7
計		98.3	110.3	108.0	102.9	107.9	111.2	106.1

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第3四半期以降の連結経常利益は-11億円変動する可能性がある

■ 為替レート

- LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第3四半期以降の連結経常利益は-9億円変動する可能性がある

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある

■ 金利

- 金利+1%の変動に対し、17.3期の連結営業外費用が年間-4億円変動する可能性がある